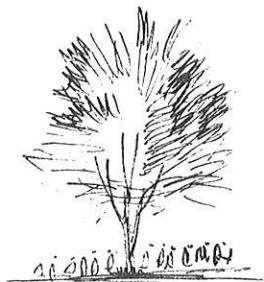


# 光の子



No. 72 1997. 6. 1.

● 希望に満たされて（ローマの信徒への手紙第15章13節）



「雨ふり」

え・中島英子

「月涼し」

まっしぐらなり月涼し水涼し

雨涼し雲間の月のこぼせしは

月涼し顔を打ちたる雨熱し

水の面にかつきり映り月涼し

涼しさの白さの月を連れ立ちぬ

帰りたくなし葭切りの鳴く夜は

大利根に子どもの家に月涼し

落合 水尾  
(浮野 主宰)

土木関係の仕事をしている友達が私に言った。「野つ原の真ん中で仕事をしている時なんかは便利だよ。だけどなあ、仕事から離れている時なんか、困るんだよ。いつでも、どこでも追い廻されるんだ。おめえなんか、持たねえ方がええど。」私も、その通りだと思った。便利さは、裏を返すと不便さも含んでいい。しかし、多少の不都合は余り問題にはならない。やはりその便利さは何ものにも替え難いからだ。

仕事で使う人にとっては、携帯電話は絶対に必要なのだろうが、さて翻つて私の事となると、絶対必要とは言い得ない。しかし、新しい物、珍しい物、というのは欲しいものだ。大方の男性には、小型でスマートな携帯電話はオモチャ的な感覚もあり、

肉と、少しの軽べつが込められていて、私がそれを見たのが、私には読みとれた。私は自分で買ったんじゃない、もらつたんだよ。」と、つい言い訳がましくなっていた。実は、その前に秘密の裏取引があったのは事実である。「むっちやん、退職祝いの記念に何が良い?」「携帯電話が良いや。」「しかし人数が少ないから買えないよ。」「大丈夫、足りない分は全部おれが出すからさ。」

と言う訳で、私は晴れて流行に乗る事になった。番号は贈ってくれた人達と息子だけに教えておいたから、

内は、やつぱり例のニヤニヤした顔で皮肉たっぷりに言った。「お父さんの気持ちも分からぬで、全くうちの子ども達は、親不孝ね。」その通りである。親不孝者たちめ、たまには携帯の方にかけるのが子どもの礼儀だろうに。しょうがない奴らだ。

友達は大抵、まだ現役で仕事をしている。そんな人達に「もしもし、今何してるの？おれ？おれは今車の中・。」なんてやつたら「おまえ馬鹿か！」と言われそうである。仕方なしに私は、天気予報を聞いてみた。正確な時刻や何ヵ所かの電話番号も聞いてみた。けれども、このようなものは何も携帯電話を使う必要はないわけだ。

いつも洋服のポケットに入れていたものが、車の中に置きっぱなしにな

「おのれのなら一いぢりはら 思ひた通り  
り。」と言われるのは明らかである。  
私は、素知らぬふりをして必死に探し  
し始めた。先ず車の中、トランク、  
ポケット。どこにもない。家の中、  
机の上や抽出の中、あげくの果てに  
は、草取りの時の事を思い出して、  
木の枝の所、物置の前、石油缶の上。  
若し誰か悪い人に拾われたとしたら、  
莫大な通話料の請求が来るかもしけ  
ない。しかし家中で大騒ぎをする  
のは真にまずい。家内にはあくまで  
ナイショである。

攜帶電話

郷土史研究家  
中島 瞳雄

いつも身の回りに置いて対応しよう

チは入れっぱなし、そして時々充電

## 希望に満たされて

ローマの信徒への手紙 第15章13節

理事長 福島 勲

聖書にも希望は、信仰、愛と共に最後まで残ると言わわれている。（第一コリント・十三・13）。さらに希望についての説明はローマの信徒への手紙、五章・八章のところに詳しく示されている。

ここで言われる希望は、救いの完成、神の国に迎え入れられる窮屈のものである。

イスラエル人らの歴史を顧みると世界中で最も苦難の多い人たちであるように思える。バビロン俘囚からヒットラーのホロコースト（大虐殺）に至るまで、悲劇の連続であつたようだ。デアスボラ（離散の民）が至るところで迫害に遭っている。コロンブスのアメリカ大陸発見の第一回航海の一四九二年、スペインではユダヤ人迫害の嵐が吹き惨殺された

ここに希望の原点を見る。

この高度な希望を生む苦難とは何なのか。信仰の故に蒙る苦難と特定するべきであろうか。たとえ自ら罪を犯してそれでもって苦しむとも、悔い改めて神の義を仰ぐとき、この苦悩の中にも、限りない希望が与えられる。「あなたがたには世で苦難がある。しかし勇気を出しなさい。私は既に世に勝っている」（ヨハネ十六・33）と主が言われるときこの世での一般の苦難も含まれよう。

この苦難からわれわれは各自さまざまな希望を抱くのである。

しかし現在のわれわれは望みを失い絶望に陥る状態である。

政治・経済・軍事・教育・人種・宗教・科学万能主義・倫理・道徳の低下、どれをとっても、心ある

二二世紀に向かって、人々は何によつて希望をつなぎ、「平和」とか、「勝利」といった希望に生きていこうとしているのか。

言葉の綾でなく、現実に人間失格の時代であると言わねばならない。

時に抱くわれわれの希望はうたかたのようになくなれる。人間の望みの絶えるところで、これを繋ぐのが神によつて与えられる希望である。

施設創立当初、まことに多くの苦難を経験した。職員たちは耐え忍み、やがてつとめにも慣れ、練達に導かれ、今や希望に満たされている。

海のものとも山のものともわからぬ幼子らの将来に夢を託し、心ある支援者に望みをつないで施設は歩みつづけている。

神による希望は失望に終わらない。

浦島太郎は乙姫からもらつた箱を開けて、立ちのぼる煙と共に静止していた時間が始動して白髪となつた。果して希望が満たされたのか、それとも絶望に終わつたのか。

り、モロッコに流謫の憂き目を見て惨死している。（小岸昭・離散するユダヤ人・岩波新書）

者への憂いの種である。進歩発達した文明文化を依然として丁髷頭で眺めているところから来る混濁とは言わせない。

おもしろおかしい  
「免疫学・寄生虫学」  
教室・年度十二月  
ス」なるのを發表  
するのが、「昨日  
の忘年会では、「  
研の公用語は中  
語になる」が堂  
三位にくい込んだ  
私が今教室に移つてからJIC  
関係のパラグアイの研修生四人を  
めて十二人の留学生をお世話した  
になる。アルバイトにばかり精を  
してさっぱり勉強しない留学生の姿  
などを友人の学者達から聞かされ  
など

トラブルが発生する。最終的には私が調停役を買って出なければならぬ事も少なくない。そんな時、自分の英語の語彙の少なさに嘆く事になる。事は人ととの諍いで、最初は微妙な小さな心理的なズレであつたものが、最終的には大きなカタストロフィーに終止してしまった訳で、事態はまことに複雑である。複雑な状況はそれに対応する複雑な言葉で語られなければ、解決の糸口は見つからない。私は悶々と悩む事になる。別々に呼んで事情を聞く事から始めるのだが、彼らは概ね興奮しており、早口の英語でまくし立てる。留学生達の英語の語彙はすばらしく多く、とても私などは太刀打ちできるものでない。私が取れる精々の措置は、事情はそのままにして「二人ともい

負けてしまった例まで引用されていました。私は何とも悲しい想いに陥ってしまった。そもそも非は私にあるようだ。悪い癖で悪ふざけをして、愚妻にもたしなめられることがあるのだが、それが言葉の壁を介して拡大してしまったようだ。彼女の英語は素晴らしいのだが、東南アジアの英語に特有の訛がある。ある発音のことで、余りがんばるものだから英英辞典を示して、彼女の発音が間違っていることを示した。私としてはゲラゲラ笑いながらふざけていたつもりであった。ところが彼女はそのことで、ひどく自尊心を傷つけられてしまつたらしい。お別れ会で、ジョークばかり言って申し訳なかつたと説びたが、私の話に皆が笑つた事が、また彼女を傷つけてしまつたようで、

の場で独りはしゃいだ留学生たちの立場に立つてものを考えられるかなのである。日本人には仲々にそのことは難しいようと思える。何しきあいが極めて少なかつた訳だし、アジアの国々とのつきあいと言えば、遠い遠い文化伝来の話を除けば、その国に攻め入るという経験しか持っていない。しかし、海で隔てられてはいても、我々日本人の生活は種々の面で他国に依存していることは、多くの食料の輸入を見るまでもない。ここらで何とか真の国際的な感覚を身につけないと、大変なことになってしまふのではあるまいか。私の立場で言えば、日本に来てよかつたという想いを抱きながら留学生が帰国してくれるよう努力することが目下の課題である。

## ひかりのこ

# 2つの文化に生きる

日本キリスト教団東大宮教会  
バーガー 京子

ここ数年のアメリカ訪問で必ず話題になることがある。それは「お墓」の話である。

ある。数年前突然「先祖の墓を見に行きたい」と言いだし、それ以来アメリカに行く度に「天気の良い日に「散歩」ではなくて「お墓参り」という家族行事が必ずある。お墓参りといつても花も持たず、もちろんお線香も持たず、ただ皆で墓地にドライブして親戚等の先祖の墓碑に書かれている名前や年を見て「この人はひいひいおじいちゃんの弟だよ」などと子どもたちに言ってそこで必ずなり年代入りの墓碑の写真を撮る。

明るくて、つい子どもたちも走り入りたくなる。今までに夫が撮った芭碑の写真はざっと数えて五〇枚ほいある。

二年前にアメリカに行つたとき、子どもたち、テネシーグランマと一緒に大きな八人乗りのバンに乗つて、「アメリカ東海岸歴史の旅」をしてみた。中でも一番印象的だったことは、やはり一六二〇年メイフラワー号で移民してきた人々の生活だつた。マサチューセッツ州のプリモスとう所では観光用だが当時メイフラワー号に乗つてきた人々が生活していく村をそのまま復元してそこに住んでいた人々の名前、服装、話し方のアクセントをすべて当時のままのキャラクターで生活しているように見ている。私たち観光客はその村にふり、そのどこを見てもいいし、そなたたちに話しかけたり質問したりしてもいい。ただ、返つてくる答えは十七世紀当時の知識を土台にしてるので「テレビで見ましたよ。」などと話しかけると「テレビって何?」という答えが返つてくる。ある女性がカメラを片手にそのブリモス村の住民の一人に盛んに話しかけていた。名前を聞いたり、ヨーロッパのどこから来たのかを聞いたりしていた。



そして最後にそのカメラの女性はそのプリモス村の女性に「あなたが私の先祖だわ。」と目を輝かせて言った。自分の先祖が三百年以上前に、イフラー号に乗ってヨーロッパから来る大きなアメリカ大陸にやって来たのを確かめるのはなんとエキサイティングなことかと思う。

はるばると言えば、私もよく二十年前、一万キロも彼方のあの大きなアメリカ大陸にはるばる行って二年間も大学でよく勉強したものだと最近思うことがある。そしてそこで出会いがあって、今度は夫がはるばる日本に来て新しい形のバーガーハンという歴史をこの日本の地に築いている。これも考えてみると本当にエクサイティングなことである。この何世紀も後に未来のバーガーハンの誰かがお天気のよいある日に散歩ではなくても先祖調べにドライブでお墓参りなどという家族行事をひょっとしたらするのではないかと思うとタダになつた。帰国後彼女から手紙を貰いホッとしているところである。

要は我々ホスト側がどれだけ異国の地で独りぼっちにされた留学生たちの立場に立つてものを考えられるにある人で、これまでに経験したことのない取り扱いを受ける結果になってしまった。帰国後彼女から手紙を貰いホッとしているところである。

彼女が帰った後に皆で話したのだが、彼女は母国ではとても高い地位にある人で、これまでに経験したことのない取り扱いを受ける結果になってしまったのではないかという結論になった。帰国後彼女から手紙を貰いホッとしているところである。

挨拶の中で彼女は又しても私に対する猛烈な攻撃を始めた。私は何とも致し方なく、正直言って腹が立つてしまつた。



## 光の子たちと

春風が優しく吹き、日ざしが柔らかく射す四月、紅子は念願のK女子校の入学式を迎えた。自他共に認められる努力によつて手に入れた高校の合格切符に、誰もが心から「おめでとう」ということが出来た。

中で、プレッシャーを感じながらも、心が豊かになっていくという稀な受験生だった。その姿に心うたれ、本來なら、彼女を支えて行く筈の私は、逆に元気付けられた。そして、私が少し疲れている時、彼女の部屋へ行つて話をすると何だかホッとさせられ、彼女は私のオアシスだと友人に話したこともある。

三月の終わり、私たちのグループに可愛い仲間が加わった。裕君（一歳七ヶ月）。幼く独りで心細くて何が何だか分からず、不安でたまらない裕君が、少しでも早く安心して食べたり、寝たり遊んだりすることが出来るよううにと思って、みんな沢山協力してくれた。裕を一日中抱いている私や、家事の一切を引き受けてくれる祐子保母を助けようと、紅子はここでも大活躍してくれた。保母

人になる

養護施設光の子どもの家は、望まれることの希だつたその存在を喜ばれ期待され、希望と誇らしさに満ちて生きられるよう願つて建てられた。この頃の拙文は、思春期の子どもたちの想像を超える激しい振幅での揺れの表現と、それへの貧しい対応についての羅列である。小学六年頃から高校生までの人格の仕上げの時期にある子どもたちの群像である。

この二年ほどの間に、子どもたちがじでかしてきた非・反社会的な行動への弁償金額は四〇〇万円を超えた。当然こんな予算はない。もっぱら職員たちのカンパによってきた。

思春期の子どもが心理的な揺れや不安を表すのは当然であり、健康に成長している証である。

しかしである、その揺れや不安の表現の際だつて並外れていることが通常の理解を超えているのである。

ほとんど理由らしいものがなくて三週間も家出放浪する。してはいけないことなど何もないかのように入家のに侵入し、憑かれたように窃盗などを働き終いには警察の手を煩わしことくまでを経験してしまうのだ。本質的には隣り合う人格をある

人になる

卷之五

菅原哲男

## 菅原 哲男

抱かれた経験さえ持たない。初体験の人的環境は、交替勤務の大人たちが関わる乳児院の生活だった。人格的な個人との関わりが希薄であるのは当然である。

隣の人格を最初の人間関係で経験できなかつたのだろうと思う。それは、母のように四六時中一緒に、言葉でなくとも通じ合える、そんな関係を経験できなかつたのだろう。言葉がないから、何時間ごとにミルクを飲まされ、おむつを取り替えられる。人格的な対応ではなく機械的な対応だ。今は知らないが、その頃の彼らの人的環境はそうちつただろうと推測できる。私はその頃、乳児院から特別老人ホームまでを経営する法人に様を喰んでいたのだから。

彼らは隣に「人」を意識しない。しないのではなく出来ないのでなか。

ワロンは、子どもは新生・乳児期から母やそれに代わる者との間で能動と受動、積極と消極などを経験し、人格を重層化し、自分の中に他者を形成し認識する、という。(身体・自我・社会)ミネルヴァ書房)

人は胎内で母と一人格で過ごし、未熟なままで出生する。心理学・精神医学では新生兒期を胎生期といふ。この時期、自らの意志表示が出来るまでの期間は、母との共生期である。

共生とは一人格の意である。その共生期の中で、言葉を用い、母とは異う行動をするようになる過程で少しずつ異なる人格、二人の人間になっていく。その過程が自分の中に他者を生じさせる、即ち、自分の行為・笑う、泣くなどを、もう一人の自分である母が喜び、悲しむという情緒が育ち、だからどうするのかという思考の回路の原初を形作るのだろう、と思う。

に代わって、年下の子をリードしてくれたり、保母の休みにまで気を遣つた発言もあった。ゆっくり話をする間もないのに、沢山助けてくれてありがとう、そう思いながらも、そんなことも言えないまま私はまだ彼女に支えられていると感じている中で、彼女は高校生活をスタートした。

三月のうちから部活に参加したり、高校へ向けて勉強をしたり、私たちを助けてくれたりと、かなり気の張つた毎日を過ごしていた。これに学校が加わつたら、今以上に紅子の負担は増えるなあ、漠然とそう考へていた。そんな心配をよそに、疲れが体調に出やすい彼女が四月の終わりまで一度も学校を休まずに、高校生生活の楽しい話もしてくれていた。

しかし、五月の連休前、部活も本格的に始まつた矢先、疲れが出たのか学校を休み始めた。苛立つている様子も窺えた。その後、体調はなかなか本格的な回復にいたらず、行つたり休んだりを繰り返した。紅子はK女子校の部活にあこがれてそれを目指しもしていた。しかし、運が悪いくことに前に傷めていた股関節の痛

みが我慢が出来ないほどにもなつてゐた。医者からはハードなスポーツには向いていない体だとはつきり言われてしまう羽目にもなつた。心身共に疲れが出ていた紅子にとつて、口には出さないものの、この診断は應えただろうと、私も心を痛めた。

紅子との話には出ないが、紅子も沢山の心の葛藤を抱えているのだと想う。自分が何のために生まれ、何をするために自分のこれからがあるのか、そういう意味で自分が何者であるのか。人は生まれながらにして平等であると教えられ信じてきたのに、気がついてみると何故こんなに世の中には不公平、不平等があるのか・・などなど。

誰にも言いたくないことがあつた  
り、感性が一致しないことにもどかしさを感じたり、苛立つたり、友人や学校、人生なんでものについてもいろいろと思い悩み、考える年齢である。

ふと自分の高校生の頃を思い出し、紅子に支えてもらった分、何か出来ることは・・?と、考るけれど、結局可も出来なハでハる私である。

でも、彼女なら、一つひとつの疑問や課題をそのままないがしろにしないできちんと向かい合い、きっと一つひとつを訓練に変え、乗り越えていき、乗り越えた時はその前よりきっと大きく深く、そして広くなっているのだろう。それが成長というものなのだろう、そう強く思う。私は、ただ心の中で応援することができない。

裕がここで生活に慣れてきて落ち着き、ひとり遊びをするようになつた。最近、裕のそのひとり遊びにお喋りが出てきた。そのお喋りがいきなりプリンプリンになることが少なくない。

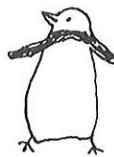
そんな様子を目にすると、それはみんな裕の周りにいる者、特に身近にいる大人である私の影響かも知れないと思う。そんなことからも無意識のうちに怒ったような口調の多い日常を、反省させられる。

イライラせずに笑顔でいること、そのためほんの少し努力することが私の出来る唯一のことなのかも知れない。

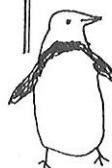
現場から

藤本 曜子

ご協力ありがとうございました。



お陰様で今年度もバザーを行うことができました。



来年もバザーを行ふ予定です。引き続き、ご協力をあい願いします。

◎送り先：光の子ビの家バザ実行委員会気付

### 日誌抄 = 暮らしの風景 =

1997年 2月1日 ▶ 3月31日

- 2日 塩田潔県立久喜北陽高校へ推薦入学試験
- 3日 高山嬉の母火葬 母の故郷の叔母と従兄弟が会葬
- 9日 町内有限会社オオタニよりレタスを沢山
- 10日 塩田潔久喜北陽高校に合格
- 16日 東大宮教会島田智子氏よりもち米をいただく
- 17日 町内江森へヤーサロンより散髪ご奉仕 感謝
- 18日 町エンゼルプラン懇談会に菅原出席
- 20日 町内阿佐間の渡辺信一氏より衣類などを 感謝
- 町内旗井の鎌野泰章氏より衣類などをいただく
- 21日 町へ社会福祉法人への助成事業の申請 金子後援会長ともに町長に陳情
- 22日 やまよし製菓よりポテトチップスを沢山
- 23日 戸石幸男氏より日用品をいただく 感謝
- 26日 県立高校入学試験 2名が受験
- 28日 香川県立養護施設亀山学園より安藤氏来訪して見学と懇談
- 1日 東大宮教会永野三恵氏より衣類をいただく 感謝
- 2日 町内野本徳勝氏より大根を ありがとうございます 感謝
- 3日 町内末柄国蔵氏よりブロッコリーのご寄贈 感謝
- 6日 県立高校入学試験合格発表 春日部女子高校に森紅子 栗橋高校に奥山章が合格 夜みんなでお祝いの会を楽しく
- 8日 県立高校卒業式 城山逸郎が卒業。

- 甲府市の武川義彦氏より鶏肉を沢山 ありがとうございます
- 9日 町内下北新井の高岩芳氏より衣類を 感謝
- 10日 坂本和歌子氏よりフランス人形を 感謝
- 11日 城山逸郎家庭引き取りにより退所
- 15日 大利根中学卒業式 3名が卒業
- 町内旗井に一戸建ちの家を借りてもう一つのグループホームを本格的に開始 先行の倉沢家に次ぎ 笹山家が誕生し、9名が外で普通の暮らしを経験 本家では21名のこじんまりして静かな生活が
- 新座市の柳瀬義雄氏ほか一名が来訪して幼い子どもたちに紙芝居など ありがとうございます
- 16日 町青鹿福祉課長より35万円の助成が決定したとの連絡を受ける 13年目の認知に来し方を思う
- 18日 町内大塚よしはる氏より葱を
- 19日 加須市梅沢三保氏よりコピー用紙を
- 21日 町エンゼルプラン懇談会へ菅原が出席
- 24日 前山良太（1歳6ヶ月）入所 藤本曜子担当
- 原道小学校卒業式 4名が卒業
- 一時保護中の羽馬由美の家族関係の調整が難航 関係者及び熊谷児童相談所福祉司 町福祉課課長補佐氏などと協議調整を重ね精力的に取り組む
- 29日 第四九回理事会 97年度事業計画及び予算案審議と承認

### 反 射 光

☆雨が降ります☆いつの間にか梅雨に入ったのかしらと思うほどです☆この度も臆面のない文書を同封させていただきました☆申し訳なく思っておりました☆反対運動がうなりをあげていて、何とか開設したいといふ願いで、理不尽な要求を飲むことは、昨今の金融社会での不祥事と変わりありません。☆子どもを育てるうござつた時に母と皮膚を接する機会は、いくという真に正当性のあるこの働きにも、理不尽がつきまといます☆生まれた時に母と皮膚を接する機会のなかつた子どもたちが、第二の誕生と言われる思春期に要求する皮膚接觸の代理行為は級数倍を超えるほどの質量です☆忍耐の限りを尽くしてその誕生に立ち会います☆バザーへのご協力心から感謝します☆忘れていたと思われている者たちが、更に人となるための暮らしのために！☆乞うご支援！

哲

☆雨が降ります☆いつの間にか梅雨に入ったのかしらと思うほどです☆この度も臆面のない文書を同封させていただきました☆申し訳なく思っておりました☆反対運動がうなりをあげていて、何とか開設したいといふ願いで、理不尽な要求を飲むことは、昨今の金融社会での不祥事と変わりません。☆子どもを育てるうござつた時に母と皮膚を接する機会は、いくという真に正当性のあるこの働きにも、理不尽がつきまといます☆生まれた時に母と皮膚を接する機会のなかつた子どもたちが、第二の誕生と言われる思春期に要求する皮膚接觸の代理行為は級数倍を超えるほどの質量です☆忍耐の限りを尽くしてその誕生に立ち会います☆バザーへのご協力心から感謝します☆忘れていたと思われている者たちが、更に人となるための暮らしのために！☆乞うご支援！